

授業改善プラン

教科（ 国語 ）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。改善策として ICT の活用を導入するものは**太字**

	観 点	1 学期	2 学期		3 学期	小中一貫の 取組
		今年度の取組 昨年度の課題から	分析	具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて	
1 年 生	知識・技能	・授業で行う漢字の確認テストでの正答率が 72%であった。 ・定期考査での正答率が、62%であった。 ・漢字の小テストを毎時行っている。	・漢字の読み書きに関しては、定着している生徒が多い。 ・使う語彙が限られているので、今後の授業で語彙を増やす指導をする必要がある。	・新出漢字、新出音訓を含んだ漢字テストを毎時実施する。 ・語句や文法の小テストや新しい語句を使用した短文を作成させる。 ・語句の意味を Chromebook で調べる際に、類義語、対義語も調べるように指導する。		
	思考力・判断力 表現力	・定期考査での正答率が 66%であった。 ・ワークシートに記入した際には、ペアまたはグループで発表させた。	・自分の意見を短い文章であれば表現することができる。 ・他の生徒の考え方や捉え方に触れることで、自分の考え方について深めることができる。	・長い文章で自分の考えが表現できるように指導する。 ・発表の際に、発表して終わりではなく質問や疑問、感想を言うように指導する。		
	主体的に学習に 取り組む態度	・指示された課題に対して意欲的に取り組むことができる。 ・決められた時間内に課題を終わらせることを意識させる。	・指示された課題が何か理解することが難しい場面が見られた。問われている内容を確実に捉えることに課題がある。 ・時間内に課題を終わらせようと努めている。しかし、読むスピードや書くスピードを意識させる必要がある。	・課題が何か理解し、自分の目標を設定し、振り返りができるようにする。 ・決められた時間内に仕上げることを常に意識し、時間配分を考えられるように指導する。		
2 年 生	知識・技能	・クロームブックを活用し前時の振り返りを行い、單元ごとにどんな力がついたのか、次回の学習でどのような場面での力をいかせるのか考えるうえで有効であった。 来年度は、漢字だけでなく語彙力をつけるテスト	・授業で行う漢字の確認テストでの正答率が 78%であった。 ・定期考査での正答率が 73%であった。 ・漢字の読み書きに関しては、定着している生徒が多い。 ・文法は、助動詞までの部分が終わっており、理解ができている生徒が多い。 ・簡単な語句を使う傾向がみられるので、今後語彙を増やす必要がある。	・漢字だけでなく、文法や語句に関する小テストを行う。 ・ワークシートにおいて、新出漢字、新出語句の意味を調べ、新出語句を使った短文を作る練習をする。 ・語句の意味を Chromebook で調べる際に、類義語、対義語も調べるように指導する。		

授業改善プラン

教科（ 国語 ）

3 年 生		を行いたい。				
	思考力・判断力 表現力	・記述の機会を時間ごとに設定することで、表現力の向上を図ることができた。来年度もグループやペアで話し合う機会を設ける。	・定期考査での正答率が59%であった。 ・物語、論説については、場面や段落ごとに内容を捉えることができた。また資料を見ながら、課題に取り組むことができた。 ・グループで生徒同士の意見交換の機会を設けることができた。	・ワークシートを使い語彙を増やし、課題に対する答え方を学ぶ。 ・決められた時間内に課題を終えられるように、時間を意識させる。 ・発表の際には、発表だけでなく質問、疑問、感想が言えるように指導する。		
	主体的に学習に 取り組む態度	・他の教科や日常生活でいかせる場面を設けることができた。来年度は、課題を見つけ、課題解決に向け、予定を立てられるような機会を作る。	・課題に対して、真摯に取り組む姿が見られた。計画的に学習を進めることができた。 ・課題に対して、粘り強く取り組む力がある。	・ワークシートを使用し、課題がすぐ捉えられるように指導する。 ・定期テストや小テスト以外でも学習に取り組めるように、課題の設定を行う。		
	知識・技能	・漢字の読み書きについては、定着が図れたとはいえない。来年度は、復習を含めた漢字の小テストを毎時間行う。	・授業で行う漢字の確認テストでの正答率が68%であった。 ・定期考査での正答率が55%であった。 ・漢字の書き取りに関して、改善は見られたが定着に至っていない。	・書き取りを中心とした漢字テストを毎時実施する。 ・文字を書く活動を多く取り入れ、漢字を書く機会を増やす。 ・語句の意味をChromebookで調べる際に、類義語、対義語も調べるように指導する。		
	思考力・判断力 表現力	・ペアワークやグループワークを取り入れ、新たな視点から物事を見ることができた。情景描写や心情描写を捉える時間を十分に取ることができた。来年度は、自分の考えをより深く、他者からもわかるように表現する力を	・定期考査での正答率が62%であった。 ・文学的文章の読解、説明的文章の読解については、課題がある生徒が多い。 ・根拠を明確にし、文章を書く機会が少なかった。	・課題が何か明確に捉えられるように指導する。 ・長い文章で表現ができるように、ワークシートをではなくChromebookのドキュメント機能を使用する。 ・説明的文章を読み、自分の考えを小論文として表現する機会を設ける。		

授業改善プラン

教科（ 国語 ）

		つけたい。				
	主体的に学習に取り組む態度	・自らの課題を見つけ、課題解決の方法を自ら見つけ出す場面を設けることができなかった。来年度以降は、1年間の学習の見通しをつけ、課題に向けて取り組めるようにしたい。	・プレゼンテーションや文章の作成において、自らの課題を捉え、進めることができた。 ・上級学校への進学に向け、中学校での学習を定着させる機会を設けることができなかった。 ・日常生活と学習内容の結びつきを意識させる機会が少なかった。 ・興味や関心を持てるように授業を進めることができなかった。	・資格試験や入試に結び付くような、復習を兼ねた振り返りを行う。 ・日常生活と学習内容を結び付けられるような授業を展開する。 ・古典的な作品については、作者の紹介を含め興味を持てるように授業を工夫する。		

カリキュラムマネジメントの視点から

- ・小学校段階の学習内容を確認できた。来年度は確認内容を踏まえた授業を計画し、実施する。